# 『風と共に去りぬ』を研究する

外崎　　聡

私達のゼミでは、世界的に有名な『風と共に去りぬ』を研究しました。私達はまず、『風と共に去りぬ』というのは、どのような物語であるかも知るため、映画を観て物語の内容をつかみました。この作業はただ単に映画を見るだけではなく、『風と共に去りぬ』の内容を短編化した本や、映画の内容の事が書いてある本などを用い、それらを利用しこの場面での人物の心理や疑問点、自分の感じた事や意見などを出し合い、この物語の内容と共に自分達の考えを出し合っていきました。

そして、物語の内容もつかみ、内容等の疑問点も活発に話し合うようになり始めた頃、いよいよ1000ページにもおよぶ原文を読み始める事になりました。しかし、この原文を読む作業が予想以上につらく、ましてや週１回程度のゼミの授業では全て読みきるのは不可能と判断し、原文は補助的に用い、部分的に訳し、その他は訳されている小説を読む事になりました。しかし、小説といっても元が1000ページもある大作なのだから、かなりの量がありました。大変でしたが、何とか読み終えました。

そして、このゼミでの総まとめとしてある課題が課せられました。それは、自分でテーマを決定し、そのテーマを掘り下げて自分なりに論じてみる、というものです。私は迷わず、主人公スカーレットと、メラニーについて論じてみようと思いました。彼女らは、正反対の人物として描かれており、スカーレットはメラニーをとっても嫌っているが、逆にメラニーはスカーレットの事を無二の親友と思っており、非常におもしろい関係になっています。相反する彼女らの関係、私はそこに注目してみました。

私達のゼミは、およそこのようて流れで１年半もの間『風と共に去りぬ』について研究しました。今思い直してみると、前半もう少しとばせば、もっともっとこの作品を深く研究できたのではないかと反省してもいます。しかし、自分としては満足のいく内容であったと思っています。もし、あともう半年あったら、別のテーマで自分なりの解釈で論じてみたかったなぁとも思います。また、原文を全部読みきれなかったのも心残りです。全部読んだらおそらく、週１回のペースだったら１年半では読みきれなかったでしょう。でもいつかは、あの1000ページもある本を読んでみたいです。

最後になりますが、指導して下さった中村先生には大変お世話になりました。私達にかなり気を使ってくださって、とても感謝しております。ありがとうございました。

（指導教員　中村　敦志）